



ナイキ本社前行動(11月20日)
*本ページの他の写真も同じ



ナイキ主催のマラソン大会での抗議RUN(10月24日)



手作りサウンドデモ(9月27日)



久恒亜由美「Yの木」

黒田将行「宮下公園の石塚」

11月20日のナイキ本社前での行動は変わったものだった。天王寺アイルという人工都市にあるビルの出入口を「宮下公園化」したのだ。寝袋で寝る人、ブルーテント小屋人間、鳩人間、木(人間?)、寝袋でウナギになってマイクアピールする人(蒲焼き反対?)、犬の散歩、バスケ、シートを広げピクニックする人たち……。約一時間、周りでビールを配る活動家たちに守られ(含めて)、そこには公共空間が出現していた。

宮下公園のナイキパーク化反対の運動が始まったのが、昨年の5月だから、もう1年半がたつ。ぼくは、いわゆる「運動」と言われる活動に参加するのは初めてなので、色々慣れないところがある。たとえば、未だにシュプレヒコールというのは気恥ずかしい。それでも、この「運動」の多様性なり表現なりには可能性と必然性があると思う。デモの時の賑やかさや、見た目のソフトさのため、ということではなく、ずっと深く表現に関わる問題なのだと思う。それは、相手側が広告というイメージ表現に多額の金を使う集団であることも関係している。

Route 246 vol.5

公共とアート2
文・小川てつオ

靴という足元から始まって、公園以前に自分たちの存在がすでにナイキ化されている。だからまるで自然な欲求のように、ナイキ化された「公共性」が立ち上がり、公園がナイキパークになるのも当然!? 一方、ぼくたちもまた、この1年半で繰り広げたデモや活動で、企業でも行政でもない「公共性」を作ってきた(はず)。その公共性を支えるのは、一人ひとりの表現である。ぼくたちの側には、常に野宿者という「存在と表現」が重ならざるを得ない人々もいる。ナイキパークとはちがう形の公共性を作れるか、そういう問いの現場が宮下公園だと思う。
*本連載は今号が最終回となります。



宮下公園のナイキ化をめぐるのは、インターネット配信の独立放送局、OurPlanet-TV制作の60分の番組「宮下公園～TOKYO/SHIBUYA～」が放映され、非常に大きな反響を巻き起こしています。YouTubeやウェブサイトで視聴可能。<http://www.ourplanet-tv.org>

246表現者会議 <http://kaigi246.exblog.jp/>